

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4372300600		
法人名	社会福祉法人 千寿会		
事業所名	グループホーム ひだまり1		
所在地	熊本県下益城郡美里町二和田1235番地1		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村報告日	令和6年 1月 11日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当施設は、美里町の市街地や山脈が見渡すことができ、四季の移り変わりを感じられ、眺めの良い所にあります。特別養護老人ホームやデイサービスと併設しており、施設にいても、地域の方々との交流を続けられる環境にもあります。外の景色を眺めながら、安らぎや安心を感じ、穏やかに過ごして頂けるよう支援に取り組んでいます。また、地域やご家族との結びつきを大切に、その人らしく生活できるように一人ひとりに寄り添いながら信頼関係作りに取り組んでおります。  
ひだまりでの生活では、本人の出来る事を探しながら、出来る事の継続を目指し、役割作りを行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

この数年のコロナ禍を終え、今年はリスクを検討しながら「変化」を感じる一年となるよう取組まれました。中でも「叶えるプロジェクト」と名づけられた取組みではふるさと訪問等も行われ、家族の協力も得ながら実現に向けた取組みの様子が聞かれました。入居者にとっての職員は「家族以上に共に時間を過ごす」存在としながらも、家族を第一に「事業所に来て日頃の入居者(親)の姿を見て欲しい」「家族の協力が一番」との思いから、家族への声掛け・呼び掛け等も積極的に行われています。介護度の幅も広くなり、より個別の対応が必要になってきている様子ですが、人生の終盤である事業所の生活が穏やかに、思いに添ったものになるような支援をうかがうことができました。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和5年11月21日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りで、理念の唱和を行っており、理念を共有し、日々のケアに努めている。	毎日の申し送り時に職員間で理念の唱和を行うことで共有と実践に繋がっている。	毎日の申し送り時の唱和で共有している様子が確認できました。理念はケアの基本であり、介護計画の基となるものと考えます。入居者それぞれの介護計画が理念に繋がるものであることを職員間で振り返り、共有する機会作りに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で、交流の機会は減っているが、地域の清掃作業は、法人として参加を行っている。また、地域のボランティアの方々も、園庭の清掃に来られている。	法人として参加している清掃作業には事業所からも職員が参加した。コロナの5類移行後、少しずつ声掛けも増えてきている様子が見られる。事業所全体では少数ではあるが入居者の地域サロン参加もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として、地域サロンでの認知症の啓発などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、4月は中止。6月は開催。8月は、ひだまりでのコロナ感染対応中にて中止。10月は開催をした。中止月の会議資料は配布を行った。	今年度も感染症の感染状況等により検討しながらの開催となった。会議では事業所の運営状況の他、身体拘束についての取り組みや課題・事例等も報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を活用しながら、報告や相談を行っている。また、必要に応じて電話や役場へ出向いて相談などを行っている。	日頃の報告・連絡・相談の他運営推進会議での報告等で事業所の取り組みを伝えている。今年度は実地指導も受け、改善が必要である点は直ちに改善し報告した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会での議題に取り上げたり、身体拘束委員会でセンサーの検討を行い、運営推進委員会でも取り上げ報告を行っている。	ひだまり身体拘束委員会で検討した記録を残し、運営推進会議で報告している。センサーマットの継続使用については随時検討している。勉強会では「3つのロック」等、テーマを設けて職員間で繰り返し学び共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ひだまり勉強会で権利擁護や虐待の内容をあげ、学びの場を設けている。(今年度は2月の予定)身体的虐待だけではなく、言葉かけについても学びの場でも発信している。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、勉強会にて学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、管理者が行うことが多く、契約の際にいろいろな話をし、ご家族の不安等を把握する様に努めている。入居後の相談など、面会時や電話で対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・ご要望は、リーダー会議の際や運営推進会議の際に報告を行っている。また、必要に応じて、運営会議での報告も行っている。	基本的に面会は自由としており、「家族も大切に」支援を行っている。家族協力も大きく、入居者と家族の関わり支援、入居者と家族が時間を過ごす面会・外出支援、行事開催等を行っており、意見・要望の出しやすい環境作りも行っている。家族からの意見・要望は法人リーダー会議でも報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ひだまりでの現状の報告は、主に運営会議で報告を行っている。 個別での相談事などは、直接、理事長等への相談を行い、法人として対応を行っている。	日頃より職員は各ユニットのリーダーや管理者、法人代表等に意見を表すことができる。ユニット・事業所内の課題は職員間で意見を出し合い検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	メモリアル休暇の取得や、短時間の有給休暇(2時間)などを取り入れ、働きやすい環境整備に努めている。また、個別研修(CM更新研修)など、業務内での受講としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひだまりでの勉強会を職員主導で行い、また、法人内部研修など2か月に1回業務内に参加できる環境を整え受講の機会を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城地区のGH勉強会など集まって行う機会は再開したが、同業者との交流は少ない。同法人での勉強会などへの参加で法人内での交流などは出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報は、職員間で共有を行い、入居後もご利用者の声を聴きながら安心して生活ができる様ケアに取り組んでいる。要望にできる限りこたえられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や面会時などご家族の思いや不安・要望などの把握に努めている。 入居後も、関係性が築ける様、コミュニケーションを取りながら安心して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望・不安等を話をしていく中でくみ上げ、要望に沿えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事・出来ないことを見極め、本人の負担にならないよう役割を持って頂いている。出来ない所の支援を行い、日常生活の不安を取り除き、安心して暮らせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の制限も緩和し、面会が出来る環境を整えた。敬老会など家族参加の行事も再開し、関係性を維持できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は「叶えるプロジェクト」を立ち上げ、個々の願いを叶える取り組みを行った。ふるさと訪問や外食などを希望に沿って行っている。	コロナも5類移行し、昨年度より計画した「叶えるプロジェクト」の実現に取り組んでいるところである。入居者担当職員より「何をしたいか」を入居者に聞き、家族と一緒に入居者の希望を叶えるために取り組んでいる。日常生活では、小さなことでも家族へ連絡し、来所して頂く機会を作ることで馴染みの関係継続の支援に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合同レクの際や行事の際に交流を持てるようにした。また、自由に両ユニットを行き来される為制限せず見守りを行い対応をした		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をされた方に関しては、面会制限等がある為、会えないが、連携室などから近況を聞いたり、同法人内の施設に移られた方は、会いに行ったりと継続した関係性に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを日常の会話の中で聞き、職員で共通認識として把握していけるよう努めている。出来る限り意向に添える形を取りたいが、難しい場合は、話し合うなどの対応をしている。	日頃から「今しかできないことがある」の思いでケアに臨んでおり入居者の思いや意向を叶える「叶えるプロジェクト」も一環である。面会受入れも緩和したため、家族からの希望も聞かれている。日頃の思いや意向は入居者の言葉からも汲み取り、意向に添うよう支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報から、今までの生活状況などを担当ケアマネやご家族より話を聞き入居後の生活支援等に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、全員のバイタルチェックを行い、体調の変化等の早期発見に努めている。また、変化に関して主治医等と情報の共有を図り早期対応・ケアの変更などに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化などの情報を共有し、ケアの変更など必要性があれば、現場の職員の意見を聞きご家族への相談を行いながらその人に合ったケアに変更している。	日々の入居者の様子は毎日の申し送りで共有している。モニタリングは入居者の担当職員により実践シートを用いて毎月行っている。アセスメントは担当職員とケアマネージャーにより行い入居者の身体状況の変化を把握している。LIFE(科学的介護情報システム)に関する評価も行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にプランの必要なケア内容をチェック項目として記入し、必要項目をチェックする		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望や本人の状況に応じて他施設への変更や他科受診の付き添いを行っている。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	面会制限の大幅な緩和を行ったためか、面会等も増え、以前のひだまりに戻りつつある。地域の祭り見学やふるさと訪問などへの取り組みが出来、ご利用者の楽しみも増えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が協力医であれば、月2回の訪問診療で、必要時に外来受診を行っている。協力医以外の主治医の場合は、ご家族の協力を得て受診を行ったり、情報の提供を行っている。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。現在は殆どの主治医が協力医であり、月2回の訪問診療を受けている。専門医等への通院は家族の協力もある。日頃の体調に変化が見られる際には法人より看護師の協力を得たり、訪問看護の利用もできる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化などは、看護師へ報告し、医療との連携をとれるようにしている。また、不在時などは、他部署の看護師の協力を得て適切な判断が出来るようにしている。(必要時は、訪問看護を利用できる)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院・ご家族と連絡を取り合い、早期の退院支援に努めている。また、入院中もご家族との連絡を取り合い、現在の状況やご家族の不安などを聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や看取りに関する話を必ず行っている。また、必要時には、ご家族の意見を聞き看取りケアの内容についても詳しく話をしている。	契約時に重度化や終末期に向けた方針と対応を説明している。実際にその時を迎える際には家族・医師等で話し合いを重ね、入院等を希望されるか、看取りまでの支援を行うか、家族の意向も大切にしている。食事が摂れる間はゼリー食や代替食にも対応している。終末期でのベッドの必要性を考え、数部屋あった畳敷きの居室のフローリング化も行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ひだまり勉強会の中で、緊急時の対応の勉強会を開催したり、状態の悪いご利用者がいらっしゃる場合は初期対応の指示などを行い、職員が対応できるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人で避難訓練を行っている。また、現在BCP作成中であるが、BCPIについての勉強会を開くなどして災害等への意識付けを行っている。	法人全体での避難訓練を年2回実施している。現在法人を柱にした事業所のBCPを作成に向け職員間で話し合いを進めており、事業所勉強会でもテーマを持った。	

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	昨年度より取り入れた、ユマニチュードの勉強会やパーソンセンタードケア・不適切ケアに関する勉強会を行い、ご利用者に寄り添うケアに取り組んでいる。	これまでの認知症ケアに加え、昨年度よりユマニチュード等の勉強会にも取り組みケアに臨んでいる。特にトイレ利用時や入浴時に関する配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、本人のニーズをくみ取り、思いに寄り添うよう努めている。 また、日常の中での言葉かけで、出来るだけ、本人の意思決定が出来るような言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や食事・入浴など本人の意思を尊重し柔軟な対応を行っている。活動なども無理をせず、本人の意思に任せている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などは、選べる方は一緒に選んで準備をしている。散髪など施設に地元の理・美容師さんと呼び、散髪を行っている。個々の馴染みの方がいらっしゃるため、本人の希望の理髪店の方に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の献立に基づいて食事を提供し、ご飯・汁物のはGHで作っている。その他に、おやつ作りなどで出来る作業の手伝いを役割としてお願いしている。イベント時はメニューを変更し対応をしている。	法人からの配食であり、汁物・炊飯は事業所で行っている。入居者の介護度も幅広く、提供の形態も様々であるが、ゼリー食・ソフト食2種類等も法人厨房で、個々に応じた細かい対応は事業所で行っている。介護度が高くなっても入居者の「食べたい」気持ちにも配慮した取り組みを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼や嚥下機能に問題がある場合は管理栄養士と相談しソフト食やゼリー食を提供している。医師・管理栄養士と相談をしながら対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	4回/日口腔ケアを行い、口腔内の清潔の維持に努めている。必要に応じて、訪問歯科を利用している。義歯使用者は、夜間はあずかり、洗浄剤にて清潔の維持に努めている。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を目指している。また、運動・水分補給で排便がスムーズに出来る様努めている。	昼間はできるだけトイレでの排泄を支援している。職員二人介助まではトイレでの排泄を支援している。朝・夜等での尿量も把握し、時間帯によってパットの大きさも試行しながら検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ下剤に頼らず運動・水分補給などで便秘の予防に取り組んでいる。必要時に牛乳などで排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1回/3日入浴支援を行っているが、拒否があった場合は時間・日にち・対応職員・場所を変更するなどの対応を行っている。体調不良の場合は、日にちを変更するなどの対応をしている。	3日に1回を基本とし、不測に備え職員間で協力ができるよう、2ユニット午前と午後で対応している。しょうぶ湯等季節を感じる日は入居者にも喜んで頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動への参加を促し、夜間の安眠に繋がれるように努めている。また、日中も、昼寝や居室で自由に過ごされるよう個々の希望に添うように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は、職員が確認できるようにしてある。誤薬防止の為、お盆に確認しやすいように準備し、注意事項や内容など貼り付け誤薬防止に努めている。薬についての勉強会の開催を行った。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせて、調理や台ふき、洗濯物等の作業を行っている。また、プランターに野菜を植えてお世話をお願いしたりと楽しみを交えた支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「叶えるプロジェクト」で希望があった方は、ふるさと訪問を行ったり。祭りの見物やドライブ等へ出かける機会を設け、気分転換や地域を感じて頂ける様努めている。また、ご家族より希望があり、親族の見舞いや葬儀参列の支援も行った。	コロナ禍で数年外出が難しい状況が続いていたため、今年に変化を感じる年となった。町の夏祭り、季節の花見等のドライブ、庭でランチプレートを楽しむ等、外気を感じる機会を作った。中には実現できなかった外出計画もあったが、事業所内でのイベントに変更する等、臨機応変に取り組んだ。	



グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理されている方はいらっしゃるが、必要な場合は、預かり金の中から支払いを行っている。園外活動が無かったため、自分で支払う状況が無かった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族から電話が入り、本人とお話しされる場合は、ユニット内の電話を使い話されている。 手紙は、毎年、写真入りの年賀状と、ご本人が可能な場合は名前などを書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに2か所のトイレがありスプレーなどを使い、匂いには十分配慮を行っている。 室内のレイアウトは季節が感じられるものになっている。	明るく穏やかな雰囲気のある共用空間では、食事後洗濯物たたみをしたり、コーヒーを飲んだり、パズル等で思い思いの時間を過ごす入居者の姿がある。訪問時にはソファから干し柿を眺める入居者の姿もあり、家庭でのんびりと過ごす様子を感じるようだった。廊下の手摺り等、入居者が自由に移動する際の安全にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所が出来るようにソファを配置し、自分のしやすい場所ですごせるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ペット以外の物は、入居時に出来るだけ自宅にあるものを持参して頂き、馴染みの物がある空間にしている。レイアウトなども安全面を考慮しながら、ご家族と話し合うこともある。	入居時に使い慣れた生活用品の持ち込みを依頼している。現在の入居者は自宅からの入居が多く、家族の協力を覚悟する設えである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やお風呂、トイレなどわかりやすい目印をつけ、理解できるように工夫をしている。また、廊下には手すりがあり安全に移動が出来るようになっている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300600		
法人名	社会福祉法人 千寿会		
事業所名	グループホーム ひだまり2		
所在地	熊本県下益城郡美里町二和田1235番地1		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村報告日	令和5年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和5年 月 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、美里町の市街地や山脈が見渡すことができ、四季の移り変わりを感じられ、眺めの良い所にあります。特別養護老人ホームやデイサービスと併設しており、施設にいても、地域の方々との交流を続けられる環境にもあります。外の景色を眺めながら、安らぎや安心を感じ、穏やかに過ごして頂けるよう支援に取り組んでいます。また、地域やご家族との結びつきを大切に、その人らしく生活できるように一人ひとりに寄り添いながら信頼関係作りに取り組んでおります。

ひだまりでの生活では、本人の出来る事を探しながら、出来る事の継続を目指し、役割作りを行っています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りで、理念の唱和を行っており、理念を共有し、日々のケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で、交流の機会は減っているが、地域の清掃作業は、法人として参加を行っている。また、地域のボランティアの方々も、園庭の清掃に来られている。ご家族の希望もあり、地域のサロンへご家族の協力の下参加されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として、地域サロンでの認知症の啓発などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、4月は中止。6月は開催。8月は、ひだまりでのコロナ感染対応中にて中止。10月は開催をした。中止月の会議資料は配布を行った。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を活用しながら、報告や相談を行っている。また、必要に応じて電話や役場へ出向いて相談などを行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会での議題に取り上げたり、身体拘束委員会でセンサーの検討を行い、運営推進委員会でも取り上げ報告を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ひだまり勉強会で権利擁護や虐待の内容をあげ、学びの場を設けている。(今年度は2月の予定)身体的虐待だけではなく、言葉かけについても学びの場でも発信している。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、勉強会にて学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、管理者が行うことが多く、契約の際にいろいろな話を行い、ご家族の不安等を把握する様に努めている。入居後の相談など、面会時や電話で対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・ご要望は、リーダー会議の際や運営推進会議の際に報告を行っている。また、必要に応じて、運営会議での報告も行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ひだまりでの現状の報告は、主に運営会議で報告を行っている。 個別での相談事などは、直接、理事長等への相談を行い、法人として対応を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	メモリアル休暇の取得や、短時間の有給休暇(2時間)などを取り入れ、働きやすい環境整備に努めている。また、個別研修(CM更新研修)など、業務内での受講としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひだまりでの勉強会を職員主導で行い、また、法人内部研修など2か月に1回業務内に参加できる環境を整え受講の機会を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城地区のGH勉強会など集まって行う機会は再開したが、同業者との交流は少ない。同法人での勉強会などへの参加で法人内での交流などは出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報は、職員間で共有を行い、入居後もご利用者の声を聴きながら安心して生活ができる様ケアに取り組んでいる。要望にできる限りこたえられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や面会時などご家族の思いや不安・要望などの把握に努めている。 入居後も、関係性が築ける様、コミュニケーションを取りながら安心して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望・不安等を話をしていく中でくみ上げ、要望に沿えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事・出来ないことを見極め、本人の負担にならないよう役割を持って頂いている。出来ない所の支援を行い、日常生活の不安を取り除き、安心して暮らせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の制限も緩和し、面会が出来る環境を整えた。敬老会など家族参加の行事も再開し、関係性を維持できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	今年度は「叶えるプロジェクト」を立ち上げ、個々の願いを叶える取り組みを行った。ふるさと訪問や外食などを希望に沿って行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合同レクの際や行事の際に交流を持てるようにした。また、自由に両ユニットを行き来される為制限せず見守りを行い対応をした		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をされた方に関しては、面会制限等がある為、会えないが、連携室などから近況を聞いたり、同法人内の施設に移られた方は、会いに行ったりと継続した関係性に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを日常の会話の中で聞き、職員で共通認識として把握していけるよう努めている。出来る限り意向に添える形を取りたいが、難しい場合は、話し合うなどの対応をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報から、今までの生活状況などを担当ケアマネやご家族より話を聞き入居後の生活支援等に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、全員のバイタルチェックを行い、体調の変化等の早期発見に努めている。また、変化に関して主治医等と情報の共有を図り早期対応・ケアの変更などに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化などの情報を共有し、ケアの変更など必要性があれば、現場の職員の意見を聞きご家族への相談を行いながらその人に合ったケアに変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にプランの必要なケア内容をチェック項目として記入し、必要項目をチェックする		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望や本人の状況に応じて他施設への変更や他科受診の付き添いを行っている。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	面会制限の大幅な緩和を行ったためか、面会等も増え、以前のひだまりに戻りつつある。地域の祭り見学やふるさと訪問などへの取り組みが出来、ご利用者の楽しみも増えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が協力医であれば、月2回の訪問診療で、必要時に外来受診を行っている。協力医以外の主治医の場合は、ご家族の協力を得て受診を行ったり、情報の提供を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化などは、看護師へ報告し、医療との連携をとれるようにしている。また、不在時などは、他部署の看護師の協力を得て適切な判断が出来るようにしている。(必要時は、訪問看護を利用できる)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院・ご家族と連絡を取り合い、早期の退院支援に努めている。また、入院中もご家族との連絡を取り合い、現在の状況やご家族の不安などを聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や看取りに関する話を必ず行っている。また、必要時には、ご家族の意見を聞き看取りケアの内容についても詳しく話をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ひだまり勉強会の中で、緊急時の対応の勉強会を開催したり、状態の悪いご利用者がいらっしゃる場合は初期対応の指示などを行い、職員が対応できるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人で避難訓練を行っている。また、現在BCP作成中であるが、BCPIについての勉強会を開くなどして災害等への意識付けを行っている。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	昨年度より取り入れた、ユマニチュードの勉強会やパーソンセンタードケア・不適切ケアに関する勉強会を継続。ご利用者に寄り添うケアに取り組んでいる。また、入浴の同性介助の希望があり、希望に沿うように対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、本人のニーズをくみ取り、思いに寄り添うよう努めている。また、日常の中での言葉かけで、出来るだけ、本人の意思決定が出来るような言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や食事・入浴など本人の意思を尊重し柔軟な対応を行っている。活動なども無理をせず、本人の意思に任せている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などは、選べる方は一緒に選んで準備をしている。散髪など施設に地元の理・美容師さんと呼び、散髪を行っている。個々の馴染みの方がいらっしゃるため、本人の希望の理髪店の方に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の献立に基づいて食事を提供し、ご飯・汁物はGHで作っている。その他に、おやつ作りなどで出来る作業の手伝いを役割としてお願いしている。イベント時はメニューを変更し対応をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼や嚥下機能に問題がある場合は管理栄養士と相談しソフト食やゼリー食を提供している。医師・管理栄養士と相談をしながら対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	4回/日口腔ケアを行い、口腔内の清潔の維持に努めている。必要に応じて、訪問歯科を利用している。義歯使用者は、夜間はあずかり、洗浄剤にて清潔の維持に努めている。		



グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を目指している。また、運動・水分補給で排便がスムーズに出来る様努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ下剤に頼らず運動・水分補給などで便秘の予防に取り組んでいる。必要時に牛乳などで排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1回/3日入浴支援を行っているが、拒否があった場合は時間・日にち・対応職員・場所を変更するなどの対応を行っている。体調不良の場合は、日にちを変更するなどの対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動への参加を促し、夜間の安眠に繋がられるように努めている。また、日中も、昼寝や居室で自由に過ごされるよう個々の希望に添うように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は、職員が確認できるようにしてある。誤薬防止の為、お盆に確認しやすいように準備し、注意事項や内容など貼り付け誤薬防止に努めている。薬についての勉強会の開催を行った。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせて、調理や台ふき、洗濯物等の作業を行っている。 個人で新聞購読され、楽しみにされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「叶えるプロジェクト」で希望があった方は、ふるさと訪問を行ったり、祭りの見物やドライブ等へ出かける機会を設け、気分転換や地域を感じて頂ける様努めている。また、ご家族より希望があり、親族の見舞いや葬儀参列の支援も行った。サロンへの参加支援も行っている。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理されている方はいらっしゃらないが、必要な場合は、預かり金の中から支払いを行っている。園外活動が無かったため、自分で支払う状況が無かった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	こちらから家族へ電話を掛けられる場合は、時間帯を決め、ゆっくり電話が出来るように配慮を行っている。ご家族より電話があった場合は取次ぎ、事務所で話せるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに2か所のトイレがありスプレーなどを使い、匂いには十分配慮を行っている。室内のレイアウトは季節が感じられるものになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所が出来るようにソファを配置し、自分のしやすい場所ですごせるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット以外の物は、入居時に出来るだけ自宅にあるものを持参して頂き、馴染みの物がある空間にしている。レイアウトなども安全面を考慮しながら、ご家族と話し合うこともある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やお風呂、トイレなどわかりやすい目印をつけ、理解できるように工夫をしている。また、廊下には手すりがあり安全に移動が出来るようになっている。		

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所：グループホームひだまり

作成日 令和6年1月11日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	基本理念の唱和は毎日行っているが、理念を柱として、提供するケアの具体的な話し合いはできていない。	基本理念に沿ったケアの提供に努める。	・年間計画の中に、基本理念を考える勉強会を計画し、理念に沿ったケアの提供を行えるようにする。	12か月
2	20	個別のニーズを聞き、実践に結び付けることが日常の中で出来ていないことがある。	「叶えるプロジェクト」の継続。	・本人の願い・したいことを個々に聞き取りをし、家族と協力を行いながら、叶える。	12か月
3	4	感染症での運営推進会議の中止があった。	感染対策を行いながら、意見交換の場を設けていきたい。	定期的な運営推進会議の開催を目指す。	12か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。